

中期経営目標シート

1. 団体の基本情報					
団体名	(公財)福岡県豊前海漁業振興基金		設立年月日	平成6年3月15日	
所在地	京都郡苅田町磯浜町1-2-6 豊前海水産会館2階		代表者名	理事長 筑紫 康博	区分 県OB
出資総額	2,030,000千円		県出資額	1,235,000千円	県出資割合 60.8%
設立目的等	福岡県豊前海の栽培漁業及び資源管理型漁業の推進等に関する事業を行い、豊前海漁業の振興と発展を図ることにより、地域漁業の経営安定向上と県民生活に不可欠な食料の安定供給に寄与する。				
団体独自の経営計画(目標)の策定有無	策定状況	計画(目標)の名称		策定年月日	計画期間
	無				

2. 主要事業の内容	
事業名	事業内容
栽培漁業の推進に関する事業	クルマエビ、ガザミ等の種苗購入、中間育成施設における育成及び放流に係る経費の助成並びに中間育成施設の改修経費を助成する。
資源管理型漁業の推進及びかき養殖促進事業	抱卵ガザミの放流・小型魚の保護及び増養殖技術に関する研究活動、講習会の実施及びかき養殖の促進等に要する経費を助成する。
漁業者の育成等に関する事業	漁協及び漁協青壮年部が実施する技術講習会等に要する経費を助成する。

3. 団体の役員数						
	H28	H29	H30	R1	R2	R3
常勤役員数	1名	1名	1名	1名	1名	1名
職員数	常勤(正規)	1名	1名	1名	1名	1名
	うちプロパー	-	-	-	-	-
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	-	-	-	-	-
	合計	1名	1名	1名	1名	1名

4. 団体の経営状況							
		H28	H29	H30	R1	R2	R3
損益計算書 (正味財産増減 計算書)	経常収益	31	31	56	55	56	43
	経常損益(経常増減額)	△ 22	11	7	△ 4	5	△ 10
	当期純損益(当期正味財産増減)	2	183	△ 82	△ 27	△ 97	△ 84
貸借対照表	資産	2,300	2,483	2,565	2,538	2,441	2,337
	負債	-	-	-	-	-	-
	純資産(正味財産)	2,300	2,483	2,565	2,538	2,441	2,337

(単位:百万円)

5. 県関与の状況							
人的支援(常勤役員再掲)	H28.4.1	H29.4.1	H30.4.1	H31.4.1	R2.4.1	R3.4.1	R4.4.1
県派遣	-	-	-	-	-	-	-
県OB	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名
財政支出	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
出資金	-	-	-	-	-	-	-
貸付金	-	-	-	-	-	-	-
補助金・負担金	6,100千円	6,100千円	6,100千円	6,100千円	6,100千円	6,100千円	
委託料	-	-	-	-	-	-	-

6. 中期経営目標における改善目標の達成状況(H29~R3)			
改善に向けた取り組みの方向性		安全確実性を重視し有価証券を運用しつつ、安定的な収入の確保及び管理経費の節減を行い、着実に豊前海の振興のための各種事業を実施する。	
改善目標の区分	目標達成に向けた具体的な取組、戦略等	達成状況、取り組み状況等	自己評価
事業活動・住民サービス	①種苗の中間育成及び放流事業等に助成して栽培漁業を促進する。	・中間育成施設の老朽化に伴う改修による経費が増えることもあったが、着実に実施することができた。	A
	②資源回復計画推進事業、漁業先進的技術導入事業等に助成して、資源管理型漁業及び先進的漁業の推進を図る。	・一部で新型コロナウイルスの感染拡大による影響はあったが、概ね実施できた。	A
	③豊前海区漁協青壮年協議会が行う研修会、技術交流会等に助成して、若年漁業者の技術、知見の向上を図る。	・中期計画当初は着実に実施できていたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、一部の事業が実施できなかった。	B
	④豊前海区漁協青壮年協議会が行う研修会、技術交流会等の参加者を確保する。	・概ね実施できていたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中期計画の最後の2か年は中止せざるを得なかった。	B
財務会計	①厳しい金融情勢の中で、可能な限り収益確保に努め、県財政支出率等の増加を最小限に抑える。	・近年の低金利の状況の中、利息収入は減少しているが、有価証券売却益により収入を確保し、県財政支出率、人件費率の抑制に努めた。	A
	②安定的な基金の運用に努める。	・基本財産で保有する全ての有価証券を、安全・確実な国債、地方債等で運用し、安定的な基金の運用に努めた。	A
内部管理	①信頼性、透明性を向上させる。	・平成25年4月公益財団法人移行と同時に、代表者を常勤役員とし、外部有識者(税理士)を登用するなどの体制を整備し、この体制を継続して確保している。	A
	②基本財産の運用を担当する役職員の専門知識を向上させる。	・継続して債券等金融商品に関する研修会への参加を行い、金利等日々の金融情報の収集に努めた。	A

※自己評価分類:  
A 達成されている。概ね達成されている。  
B 新型コロナウイルス感染症の影響により達成できなかった。  
C 目標が達成できなかった。(Bを除く)

7. これまでの取り組みの総合評価

・助成により種苗育成、資源管理及び漁業者育成の各事業を促進することで、豊前海漁業の振興に資することができた。  
 ・保有する有価証券について、安全確実性を重視しつつ市場の動向を注視し効率的な運用に努め、安定的な財源を確保し、豊前海の漁業振興のための各種事業を展開することができた。  
 ・また、平成25年4月公益財団法人移行と同時に、代表者を常勤役員とし、外部有識者(税理士)を登用するなどの体制を整備し、この体制を継続して確保するとともに、公益法人会計基準による適切な運営に努めた。

8. 改善目標

団体を巻き込む環境 (R4～R8)		・国際情勢の変化により、金融市場も不確実な状況となっており、有価証券の運用に関しても、その動向をより注視し効率的な運用をしていく必要がある。 ・沿岸漁業は厳しい状況であり、豊前海の水産資源の確保、漁業の振興のためには、栽培漁業及び資源管理型漁業等を、県、市町の水産施策と連携し継続して推進していく必要がある。					
改善に向けた取り組みの方向性 (R4～R8)		安全確実性を重視し有価証券を運用しつつ、市場の動向を注視し安定的な収入の確保及び管理経費の節減を行い、着実に豊前海の振興のための各種事業を実施する。					
改善目標の区分(視点)	目標達成に向けた具体的な取組戦略等	指標		実績		目標	
			単位	H29	R3	R4	R8
事業活動・住民サービス  (計画性 公益性等)	①種苗の中間育成及び放流事業等に助成して栽培漁業を促進する。	種苗中間育成放流助成金	千円	24,292	22,751	23,000	23,000
	②資源管理型漁業推進事業、かき養殖促進事業に助成して、資源管理型漁業の推進及びかき養殖の促進を図る。	資源管理型漁業推進事業費助成金等	千円	4,049	4,300	4,000	4,000
	③豊前海区漁協青壮年協議会が行う研修会、技術交流会等に助成して、若年漁業者の技術、知見の向上を図る。	漁業者の育成に関する事業	千円	2,580	1,578	2,600	2,600
	④豊前海区漁協青壮年協議会が行う研修会、技術交流会等の参加者を確保する。	参加率	%	71.1	中止	70	70
財務会計  (経済性 効率性等)	①厳しい金融情勢の中で、可能な限り収益確保に努め、県財政支出率等の増加を最小限に抑える。	県財政支出率	%	19.6	14.2	16.0	16.0
		人件費率	%	35.8	28.6	29.0	29.0
	②安定的な基金の運用に努める。	基本財産平均運用利率	%	0.8	1.0	0.9	0.9
内部管理  (健全性等)	①信頼性、透明性を向上させる。	外部専門家の監事への登用	-	実施	実施	実施	実施
	②基本財産の運用を担当する役職員の専門知識を向上させる。	債権等金融商品に関する研修会への参加	-	実施	実施	実施	実施
	③管理・運営体制の充実	事業継続計画(BCP)の策定	-	-	-	検討	実施